

創立130年記念事業

生田10号館（仮称） 建設工事始まる

収容人員5400人の新校舎“知的創造の場”目指す

創立130年記念事業の一環として、平成19年4月からの利用開始を目指し、生田10号館（仮称）の建設工事が始まった。

収容人員約5400人の新校舎は、L型で地下1階（9号館側からの入り口）、地上6階建てで、延床面積は約2万1000平方メートル。学生が集い、くつろぎ、議論し、プレゼンテーションを試みることのできるアカデミーモール（1階）や、くつろげるレストラン・ラウンジ（4階）など、学生にゆとりの場を提供。「知的創造の場」となるよう設計され、自然環境との調和、地域社会との交流にも配慮し、「開かれた、クリーンで、思いやりのある」建物を目指した。



野球場跡地に建設される延床面積約2万1000平方メートルの「生田10号館」（仮称）の完成予想図

10号館（仮称）へは、向ヶ丘遊園駅から徒歩による北口、バスを利用して9号館前ロータリーを経由する西口、現在の正門・既存校舎からの南口と、3方向からのアプローチが可能となる。9号館との連絡通路も設けられる。北口は駅から最も近く、「新正門」としての役割を担うこととなり、7・8・9・10号館が連結し、新たな“社会知性開発拠点”となることが期待されている。

主な機能は次のとおりとなっている。

[1] 教室—大教室はホールとしての機能も

600人教室（1室）、300人教室（5室）、233人教室（1室）、108人教室（10室）、72人教室（16室）を設ける予定。3階と4階の大空間を利用した600人教室は通常授業のほか、講演、音楽会などにも対応可能なホールとして位置づけている。72人教室は小規模授業や語学教育に対応できる。ゼミ室は30人及び24人の2種類を設けている。

[2] 情報コアゾーン—ユビキタス社会に対応

1階には、情報コアゾーンを設け、学生が大学からの情報を受信し、外部の情報にアクセスできる機器を設置する専用の空間を設けた。その一部には、語学教育等を支援しうるLL自習室的な役割を果たすスペースが配置されている。

[3] アメニティスペース・レストラン—創造的な空間を提供

各所にホワイエ（ロビー）を設け、建物にゆとりを持たせている。プレゼンテーションなどに利用するアカデミーモールは、学生に創造的な空間を提供している。4階には、広いレストランスペースを確保。このスペースは学生ラウンジとしての機能も持っている。

[4] その他

全館禁煙とし、建物外に喫煙スペースを設ける。中・小教室は学生が課外活動に利用できるように移動機の設置防音対策などが施されている。

※工事の進行状況については、随時、ホームページでお知らせする予定です。

厳かに地鎮祭

生田10号館（仮称）の新築工事地鎮祭が11月9日、工事予定地の野球場で執り行われた。

大学側から出牛正芳理事長、日高義博学長、設計の(株)山下設計、施工を受け持つ鹿島・佐藤工業・小田急建設共同企業体の代表者及び大学関係者約80人が出席。祝詞奏上の後、鍬入の儀、玉串奉奠などを行い、全員で工事の安全を祈願した。



神官による「切麻散米(きりぐささんまい)」。手前の前列左から三島英雄専務理事、日高学長、出牛理事長

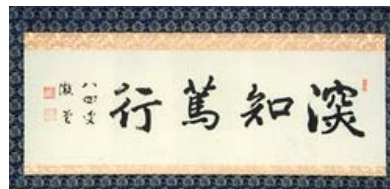


出牛理事長による「鍬入(くわいれ)の儀」

《キャンパス探訪 -30-》

今村力三郎「深知篤行」など

「深知篤行(しんちとっこう)」は「深く物事を知り、誠実に対処する」意である。「八四叟(老人)」と、雅号の「徹堂」を添えており、84歳の揮毫(1949年ごろ)である。今村力三郎は、本学卒業生で高名な弁護士であり、46年から54年まで本学総長を務めた。



49年は学制改革で新制大学に移行した年でもあり、この書には、人権派弁護士として司法に携わった今村の人生訓さえ汲み取れる。楷書に近い行書で、晩年にあつて、信念に溢れた力強い筆遣いが印象深い。

大学史資料課には、ほかに今村の書「與天遊(天とともに遊ぶ)」「福生於無為(福は無為に於いて生ず)」なども収蔵されている。来年1月末まで、図書館神田分館で今村力三郎展が開催されており、「福生…」の書が鑑賞できるので、どうぞ。